

後十字靭帯損傷の治療 現状と課題

○濱田 雅之 (はまだ まさゆき)(MD)¹⁾, 衣笠 和孝 (MD)¹⁾, 米谷 泰一 (MD)¹⁾,
松尾 知彦 (MD)¹⁾, 史野 根生 (MD)²⁾

¹⁾ JCHO 星ヶ丘医療センター スポーツ整形外科

²⁾ 行岡病院 スポーツ整形外科センター

後十字靭帯損傷 (PCL) 単独膝に対する保存治療の成績については、以下のことが明らかにされて来た。1) 我々の新鮮 PCL 単独損傷膝に対する関節鏡を用いた調査によると、半月板損傷が 29% に、また中等度以上の関節軟骨損傷が 18% 存在した。2) 陳旧性 PCL 単独損傷膝では、合併関節軟骨損傷 / 変性が、新鮮例より高頻度にみられる。また、受傷後長時間経過例ほど、その損傷 / 変性は、さらに高頻度かつ重症化する傾向にある、との報告が一般的である。一方、我々が行った半月や軟骨損傷を認めない新鮮 PCL 損傷膝に対する保存治療の前向き研究の成績は良好であった。

以上のことから、初回靭帯受傷時に合併した軟骨損傷は、保存治療例における関節症性変化発生の有力な危険因子であると考えられる。PCL 単独損傷膝に対しては、漫然と保存療法を適用せず、合併半月板 / 関節軟骨損傷を考慮に入れ、靭帯再建術などの手術治療も適宜選択することが肝要である。